

【漁況】 [マアジ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、1965年の53万トン进行ピークに減少傾向となり、1980年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、1996年には33万トンに増加し、1998年までは30万トン台で推移しましたが、その後再び減少傾向に転じ、2023年は9.2万トンとなりました。

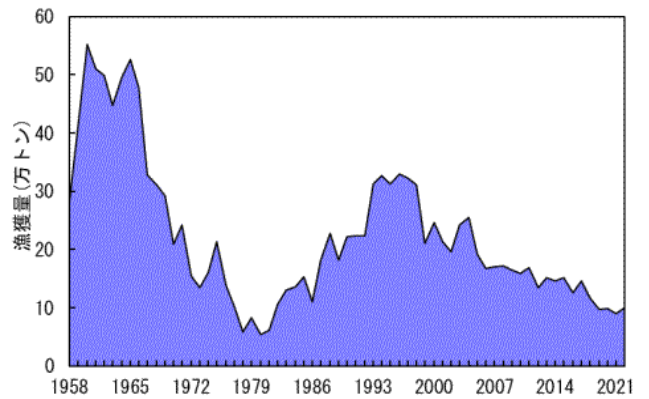


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の2025年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域では、4月に甑東、縄瀬、牛深沖、串木野沖で豆銘柄（1歳魚：2024年）主体の漁場が形成されました。5月には五島下で豆銘柄（1歳魚：2024年）、甑東、牛深沖で豆銘柄（1歳魚：2024年）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、4月に立目崎沖、枕崎沖で豆銘柄（1歳魚：2024年）主体の漁場が形成されました。

両海域とも6月には主立った漁場は形成されませんでした。

4港計のまき網では1,667トンの水揚げで、前年比129%、平年比86%でした。

3. 県内の2025年7～9月期の見とおし

漁獲主体：小銘柄以下（1歳魚：2024年）

来遊量：前年、平年並

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様と正の関係があることから、前年、平年並になるものと考えられます。

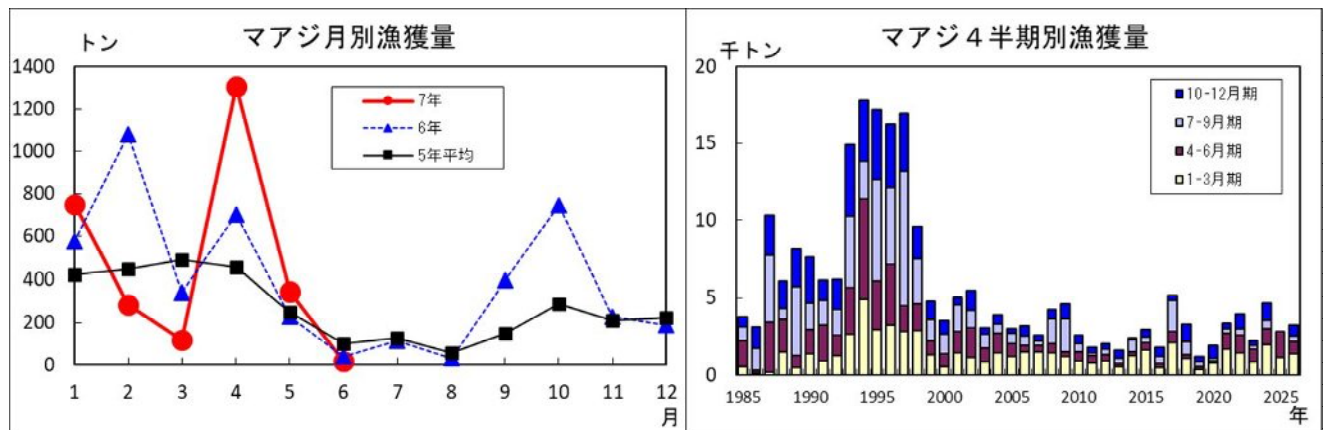


図 マアジまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値（AV）、2025年6月24日までの水揚げ量を使用
（以下同じ）

[サバ類]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、1978年の160万トン进行ピークに年々減少し、1991年には26万トンとなりました。

1993年から増加に転じ1997年には85万トンとなりましたが、2002年には28万トンまで減少しました。

2006年に65万トンまで増加したあと減少傾向となり、2023年は27万トンとなりました。

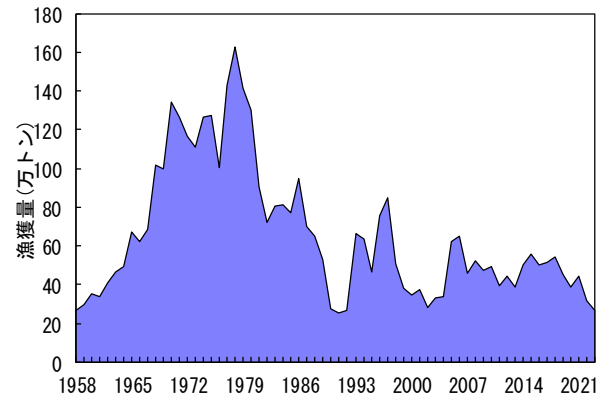


図 全国のサバ類漁獲量の推移

年

2. 県内の2025年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域では、4月に縄瀬、串木野沖で小・中銘柄（1～2歳魚：2023～2024年）、甑東、串木野沖で豆銘柄（当～1歳魚：2024～2025年）主体の漁場、5月に五島下で小銘柄（1歳魚：2024年）主体の漁場主体の漁場、6月に五島下で大・中銘柄（2歳魚以上：2023年以前）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、4月に湯瀬で大銘柄（4歳魚以上：2021年以前）主体の漁場、5月に種子島・屋久島沖で中銘柄（2歳魚以上：2023年以前）主体の漁場、6月に馬毛島沖で（3歳魚以上：2022年以前）主体の漁場が形成されました。

4港計のまき網では2,872トンの水揚げで、前年比102%、平年比73%でした。

3. 県内の2025年7～9月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ中銘柄（1～3歳魚：2022～2024年）

来遊量：前年，平年並

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様と正の関係があることから、前年，平年並と考えられます。

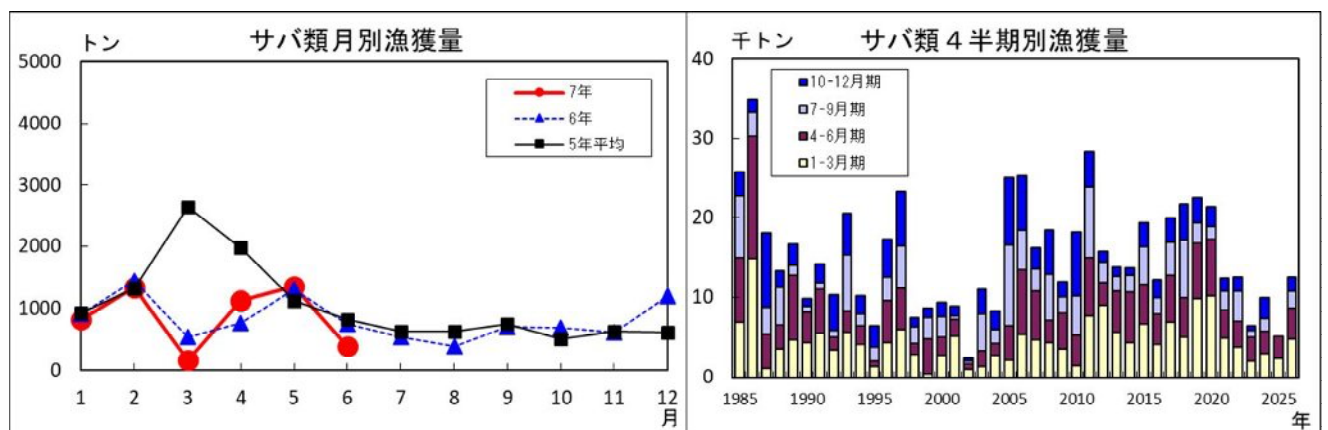


図 サバ類まき網漁獲量変化（4港計）

[マイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、1950年代から1960年代にかけての不漁期の後、1973年頃から増加の傾向が見られ、1988年には449万トンまで増加しました。

1989年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、2002～10年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、2011年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、2013年以降は20万トンを超える漁獲が続き、2023年は69万2千トンとなりました。

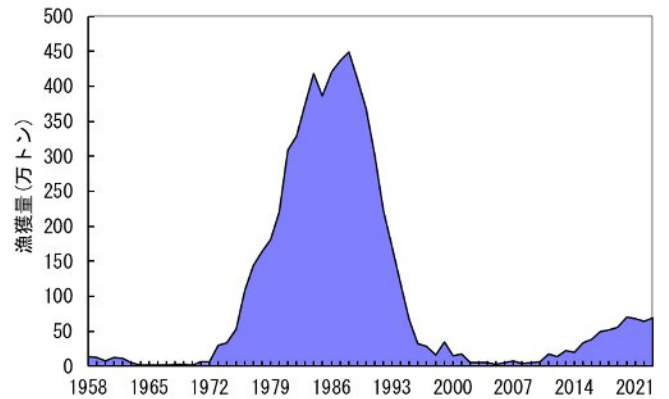


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

年

2. 県内の2025年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では、期を通じて縄瀬、甑東、串木野、牛深に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、期を通じて野間池、坊津に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中～大羽（1～3歳魚：2023～2024年）主体に2,701トンの水揚げで、前年比61%、平年比274%でした。

北薩海域の棒受網では、中～大羽（1～3歳魚：2023～2024年）主体に61トンの水揚げで、前年比216%、平年比129%でした。

3. 県内の2025年7～9月期の見とおし

漁獲主体：7～9月は小～中羽（0歳魚：2025年）主体

来遊量：前年並で、平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年並で、平年を上回ると考えられます。

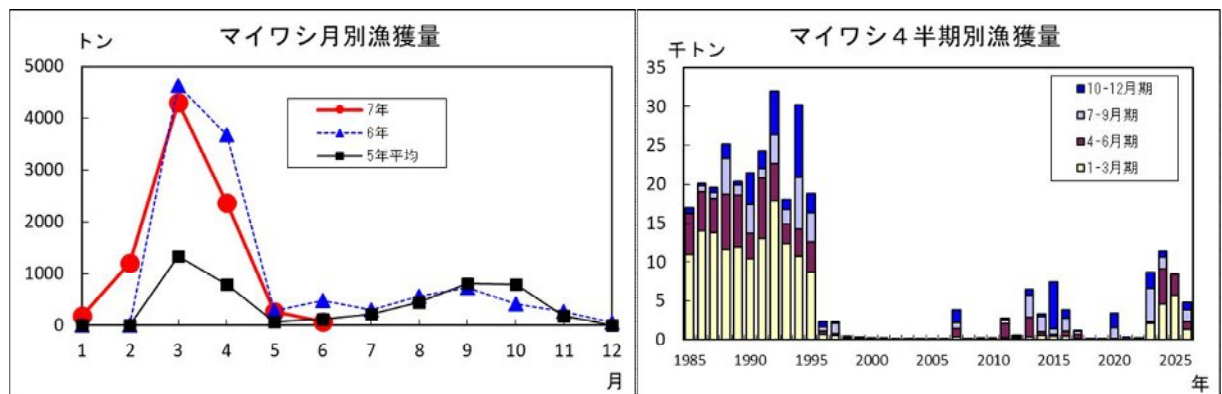


図 マイワシまき網漁獲量変化（4港計）

[ウルメイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、1950年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、1994年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ2000年には2万4千トンまで減少しました。

2003年以降は再度増加傾向に転じ、2016年は9万8千トンで1958年以降では最高の漁獲量となりました。2023年の漁獲量は8万9千トンとなりました。

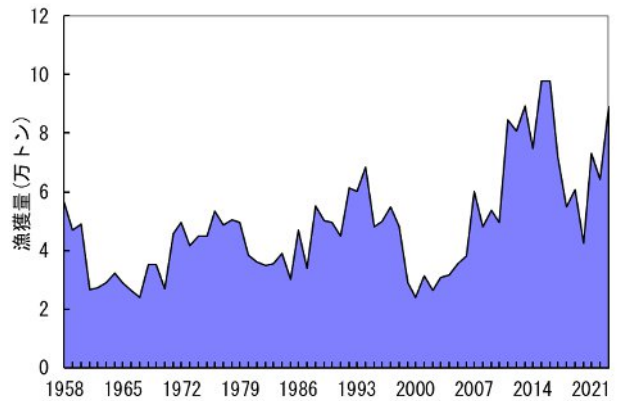


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

年

2. 県内の 2025 年 4～6 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では、期を通じて西北薩海域に散発的に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、期を通じて坊津、枕崎沖、立目崎沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中～大羽（1 歳魚：2024 年）主体に 514 トンの水揚げで、前年の 78% 及び平年の 121% でした。

北薩海域の棒受網では、中～大羽（1 歳魚：2024 年）主体に 23 トンの水揚げで、前年の 125% 及び平年の 28% でした。

3. 県内の 2025 年 7～9 月期の見とおし

漁獲主体：7～9 月は小～中羽（0 歳魚：2025 年）主体

来遊量：前年，平年並でしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年，平年並と考えられます。

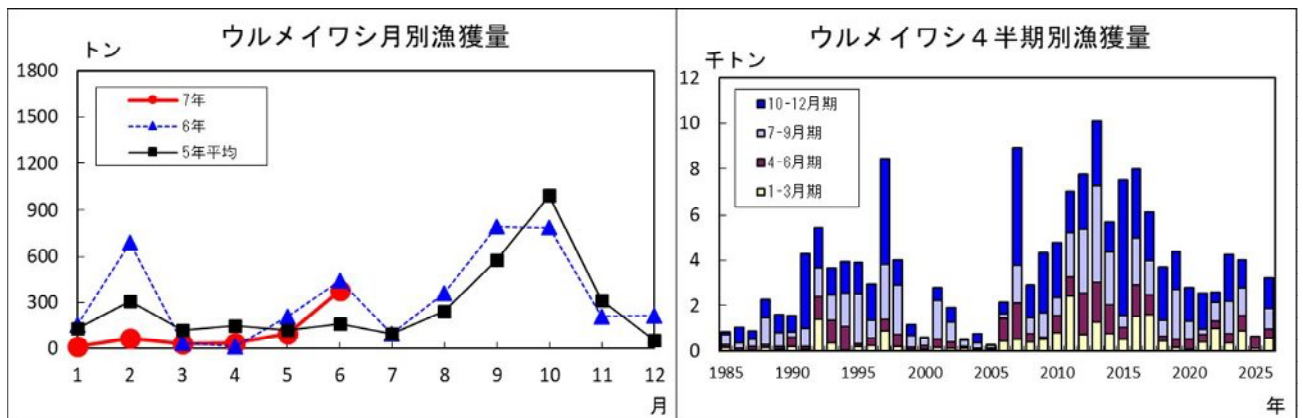


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

[カタクチイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、1973年まで30万トン台で変動していましたが、1974年以降減少傾向となり1979年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、2003年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、2023年は11万2千トンとなりました。

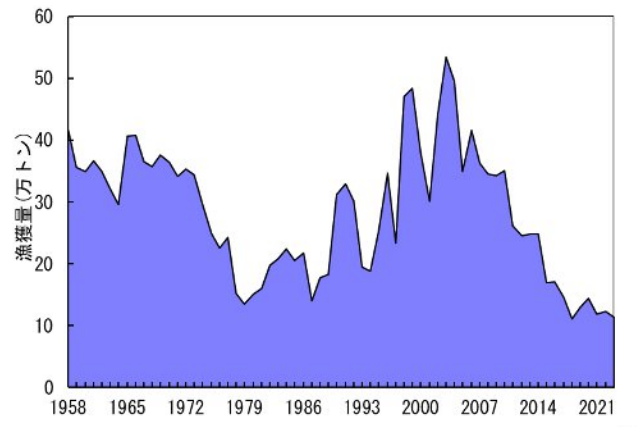


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 県内の 2025 年 4～6 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では、5月に長島で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、漁場が形成されませんでした。

4 港計のまき網では、中～大羽（1 歳魚：2024 年）主体に 22 トンの水揚げで、前年の 9 % 及び平年の 6 % でした。

北薩海域の棒受網では、中～大羽（1 歳魚：2024 年）主体に 68 トンの水揚げで、前年の 80 % 及び平年の 51 % でした。

3. 県内の 2025 年 7～9 月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（0～1 歳魚：2024～2025 年）

来遊量：前年並で、平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過から予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年並で、平年下回ると考えられます。

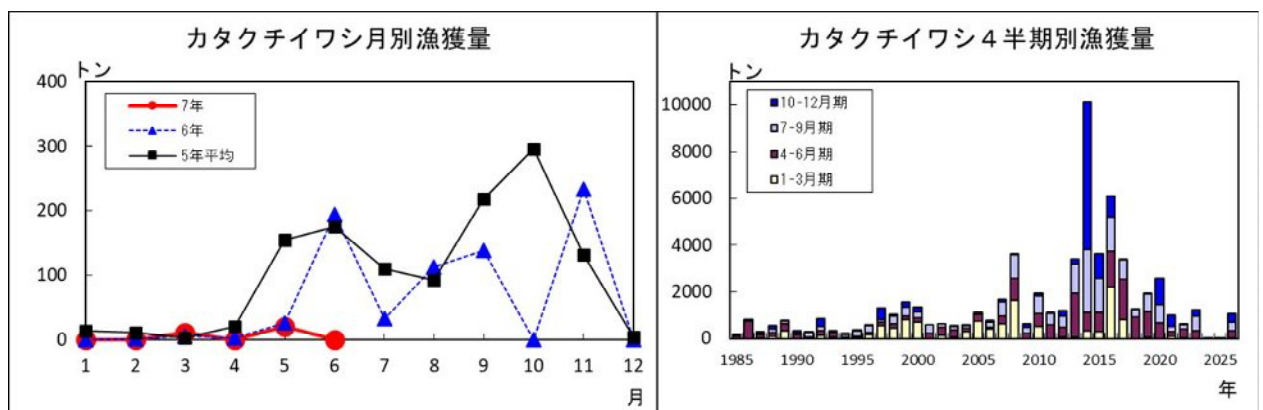


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

[イワシ類参考資料]

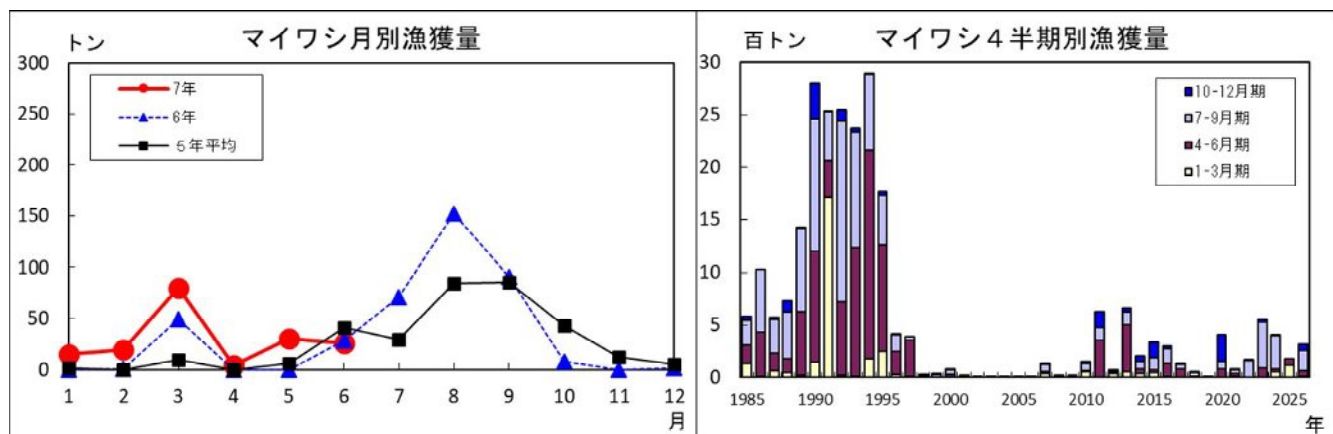


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

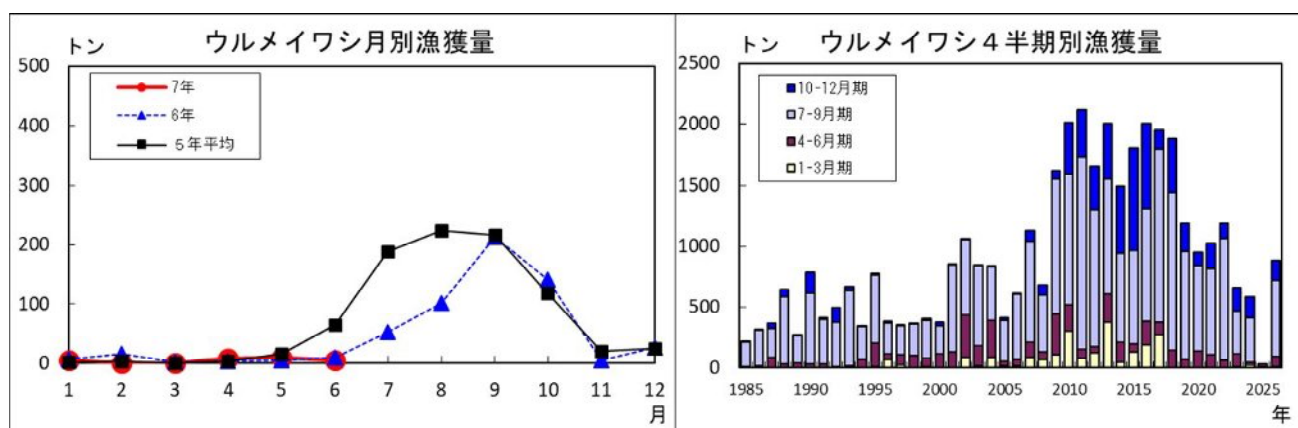


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

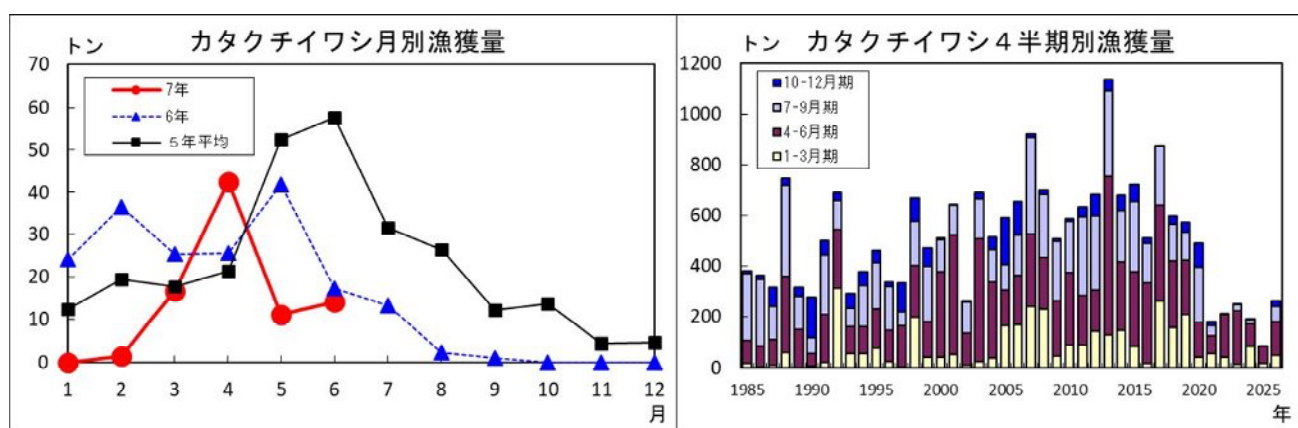


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

[ムロアジ類]

〈クサヤモロ、ムロアジ、モロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年経過

ムロアジ類の漁獲量は、1990年の21,700トン进行ピークに急減し、1994年以降は1,500トンから5,000トンの間での推移しており、2024年は1,545トンとなりました。

2. 県内の2025年4～6月期の漁況の経過

6月にメクラ曾根にて漁場が形成されました。銘柄別では、クサヤモロ中小・小銘柄が主に漁獲されました。

4港計のまき網では171トンの水揚げで、前年比114%、平年比40%でした。

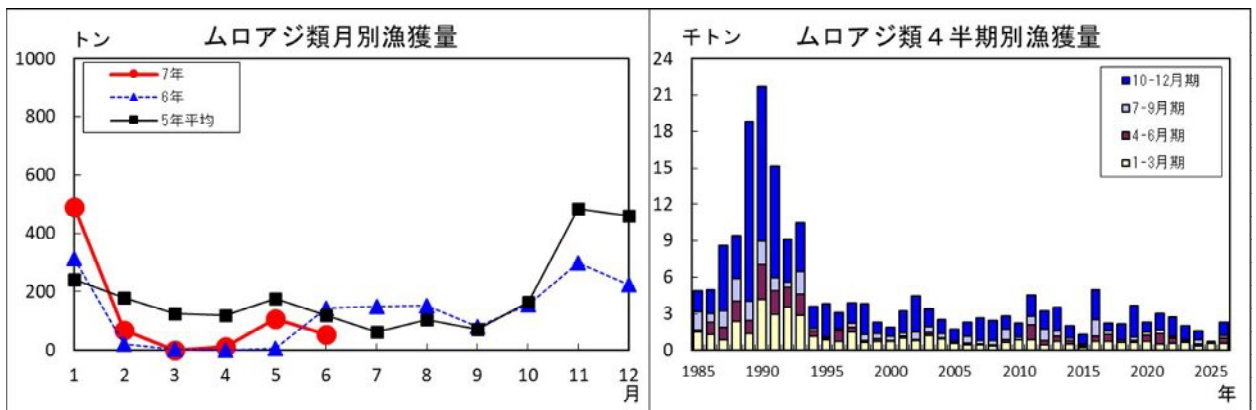


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年経過

オアカムロの漁獲量は、1989年の5,300トン进行ピークに一旦減少し、1995年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となり、2007年には700トンとなりました。2008年に2,300トンまで増加した後は700～2,400トンの間で推移し、2024年は279トンでした。

2. 県内の2025年4～6月期の漁況の経過

5月に湯瀬で漁場が形成されました。銘柄別では中小銘柄が主に漁獲されました。

4港計のまき網では16トンの水揚げで、前年比106%、平年比9%でした。

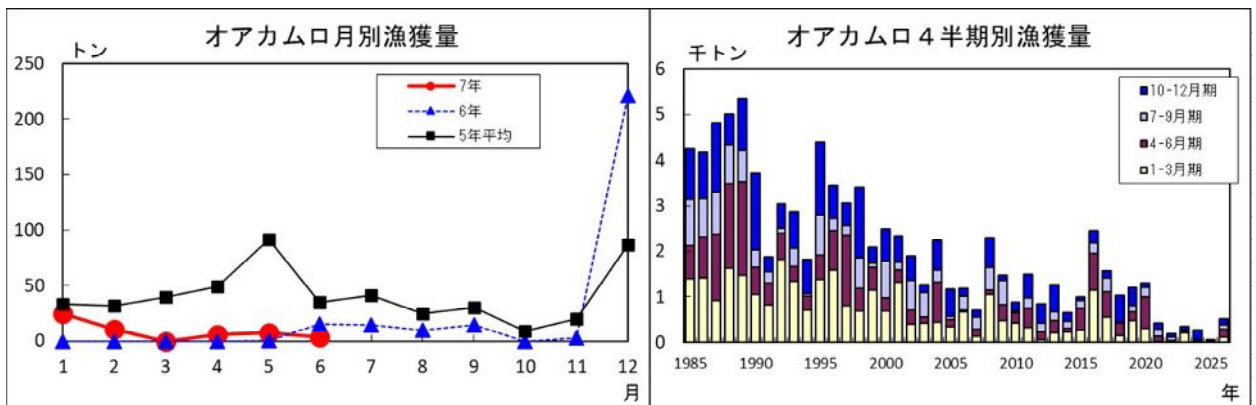


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

[マルアジ]

1. 経年経過

マルアジの漁獲量は、1987年から1989年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、2000年から2003年に再度ピークを迎え2003年には3,150トンと最高を記録しましたが、2004年以降は低調に推移し、2024年は477トンとなりました。

2. 県内の2025年4～6月期の漁況の経過

4月に内之浦沖で漁場が形成されました。銘柄別では、豆銘柄が主に漁獲されました。4港計のまき網では23トンの水揚げで、前年比109%、平年比52%でした。

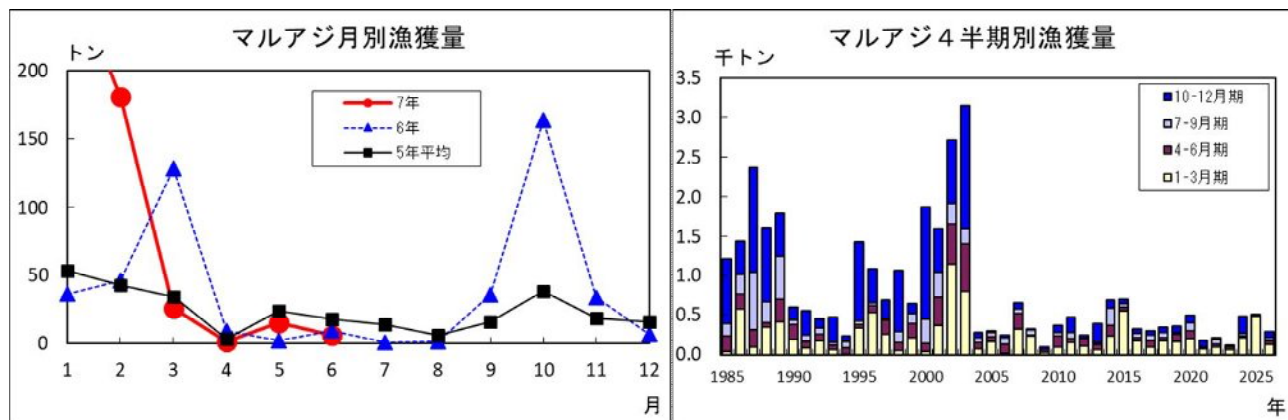


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）